

放射線腫瘍学

【目的】

放射線腫瘍学は全身の様々な腫瘍性病変を専門領域としており、がんの病態解明とともに放射線を用いた低侵襲治療の開発を目指した研究が続けられている。放射線治療は生物学と物理学の進歩を礎として発展し、今日の集学的ながん治療において中心的な役割を果たしている分野である。

放射線腫瘍学講座のアドバンストコースでは、これまでの「がん治療学」の実習で学んだ基礎知識を踏まえて、放射線治療全般について深く理解し、臨床経験を積むことを目的とする。また広島大学病院で実践している高精度放射線治療について理解する。2週間の実習では、時間毎に担当する指導教官を決めてマンツーマンの教育が実践できる様にする。可能な限り診療現場に携わり、診察と放射線治療計画を経験できるようにする。また、画像診断を踏まえたがんの治療法選択や患者の全身管理など、がん治療について広く学ぶようにする。実習期間中に院外実習の機会も設定する予定である。

【実習の実際と到達目標】

- 1) 放射線療法・手術療法・化学療法からなる集学的ながん治療について基礎的事項を総合的に理解する。
- 2) 担当教官のマンツーマンの指導の下に外来と病棟での医療に臨席して、がん診療に必要な知識と技能を習得する。
- 3) 放射線治療について適応・方法・効果を理解し、担当教官の指導の下に実際に治療計画を行う。
- 4) 強度変調放射線治療や定位放射線治療、画像誘導放射線治療や呼吸同期照射など最新の高精度の放射線治療について具体的に学習する。
- 5) 小線源治療においては術者の補助として治療に参加して技能を学ぶ。
- 6) 全身のがんについて各種の画像診断に基づいた治療法の判断ができるように経験を積む。
- 7) 各種のカンファレンスや勉強会ではプレゼンテーションの機会を設定する。その準備と質問に対する応答を通して知識の習得を図る。

週間スケジュール (概略)

	月	火	水	木	金
9:00-	外来・病棟	治療計画	教授外来 小線源治療	外来	外来
13:30-	治療計画 がん高精度放 射線治療センター	病棟 病棟カンファレンス 教授回診	医学物理	治療計画	治療計画
17:00-		放射線治療 カンファレンス			

上記のスケジュールは目安であり、担当する教官や診療の状況によって変更が生じる事がある。

諸注意など

実習の前の週末にメールでスケジュールを連絡する。実習初日は新診療棟2階の放射線治療科外来(201番窓口)に9時15分に来ること。2週間の実習に関するオリエンテーションを行う。その際に具体的な実習内容とスケジュールを調整する。外来と病棟での診察、放射線治療計画、小線源治療など実地の臨床をマンツーマンの指導にて行う予定である。

そのほかの実習場所は下記の通り

放射線治療・治療計画： 新診療棟地下1階 (治療計画室)
病棟： 10階東病棟 スタッフステーションおよび病室
教授回診： 10階東病棟 カンファレンスルーム2
小線源治療： 新診療棟地下1階 もしくは 10階東病棟 小線源処置室
(勉強会とカンファレンスについてはオリエンテーションの際に時間と場所を伝える)

外来診療では新患および再診患者の問診、身体学的所見の取得などを担当教官の指導のもとに行い、診療経験を積む。治療計画では実際に臨床に用いるものと同じ治療計画装置を用いて、放射線治療における標的体積の設定や照射方法決定のプロセスを試行し、担当教官と討議して至適な治療計画の立案について学ぶ。病棟では実習期間中の診療チームの一員として担当患者の診察を行い診療の経験を積む。入院患者の診察は毎日行い、担当教官と討議する。当科に関わる勉強会やカンファレンスには積極的な参加を求め、症例の提示や発表を行ってもらおう事としている。

実習に際しては臨床に携わる医療者としてふさわしい身なりを整え態度をとること。実習終了後にはレポート課題の提出を求める。その具体的な内容は実習期間中に指示する。提出期限を遵守すること。

評価

学生の評価は以下のように行う。

評価項目	配点
指導医による学生の行動内容の評価 (レポート含む)	30
教授回診での患者提示のでき具合	20
カンファレンスでのプレゼンテーション	10
学生用カルテの内容	10
ポートフォリオの内容	10
教授試問	10
小テスト	10

担当教官

永田 靖 (教授)：指導責任者
村上 祐司 (講師)
木村 智樹 (講師)
西淵 いくの (助教)：スケジュール調整担当者